

加齢性難聴対策について

問 加齢性難聴について介護保険事業計画の中に認知症対策として位置づけること。次期の介護保険計画に向けた「高齢者実態調査」に聞こえの問題を盛りこむこと。

答 現行計画には補聴器支給を「自立生活への支援」として位置づけている。次期計画のための調査は設問を精査しているところ。

問 補聴器支給事業について、補聴器相談医への受診や、補聴器の入手後も専門知識を持つ認定補聴器技能者に調整してもらえる制度にすべき。

答 補聴器相談医含めた耳鼻科医を受診することになっている。また区は認定補聴器技能者のいる区内事業所と契約しており、お渡

し後も何度も無料で再調整できることを案内している。

問 支給対象年齢を70歳以上から65歳以上に引き下げるこ

答 申請者の9割が75歳以上であり引き下げる予定はない。



国民健康保険料など コロナ減免の改善を！

コロナ禍で本業の収入が2020年度と比べ3割以上減少していれば、2021年度コロナ減免の申請をすれば国保料などは減免されます。その際、都の「協力金」等は収入から除外されます。しかし、そもそも2020年度はコロナ禍で収入が減っていますから、そこから3割減というのは高いハーフドルになり、多くの場合コロナ減免の対象にななりません。

新宿区の1人当たり国保料

15年で1.5倍以上に！



東大和市では独自に2020年度だけでなく、コロナ前の2019年度と比較出来るようにしています。「新宿区でも2019年度も比較対象にすべき」と求めましたが、区長は「考えてない」との答弁でした。また、「来年度もコロナ減免を継続するよう国に要望すべき」との質問に、区長は「特別区長会で要望している」、コロナの感染状況を踏まえ「適切に対応」していくと答弁しました。

「デフリンピック東京開催を求める意見書の提出に関する陳情」採択される！

陳情
採択！

新宿区聴覚障害者協会から提出された陳情が、全会派一致で採択されました。1924年に第1回デフリンピック（パリ大会）が開催されてから2025年で約100年。東京開催の実現で、聴覚障害者に対する理解や手話言語の必要性などへの理解や順応が広がることを願います。

*デフリンピック＝聴覚障害者の国際スポーツ大会

12月9日、「子どもへの給付金は全額現金で」を含め、コロナ対策や育休延問題で区長に申し入れを行いました。



ご相談はお気軽に寄せください。各議員と区議団は、定例の法律・くらしの相談会を行っています。



雨宮たけひこ

左門町13仙丈ビル501
090-1544-5088



近藤なつ子

戸山1-16-16-310
090-4849-3227



藤原たけき

山吹町311 榎本荘1階
070-5371-5853



あざみ 民栄

富久町9-11 ハイホーム本陣501
090-1802-4520



川村のりあき

西落合1-32-18
070-6510-8893



沢田あゆみ

西早稲田2-19-1 共美ビル101
090-3088-9591



高月まな

大久保1-3-3-402
080-5876-2337

ご存じですか？ 国の「特別障害者手当」

特別障害者手当は、精神や身体に重い障害があり、常時特別な介護が必要な人に支給する国制度です。

問 HPや制度説明資料に「施設入所者は対象外」とあるが、それは特養ホームであり、有料老人ホームは対象となる。HPや説明資料の改善を。

答 HPと説明資料に注釈を入れ、周知に努める。

問 同手当は障害者手帳所持の要件はなく、



一般質問する
川村のりあき議員

要介護4・5等は対象となり得る。要介護4・5の方に直接申請書を送付し、高齢者総合相談センターやケアマネジャーと連携し周知を。

答 要介護度のみでは支給対象か判断できないため申請書を送ることは考えていない。高相センターやケアマネへの情報提供は行っていく。

高すぎる国保料、1人1万円引き下げて！

毎年上がり続けている国民健康保険料。子ども1人分の均等割は年52,000円で、7割減額の対象になっても15,200円です。藤原・近藤両議員は、「国保加入者は約8万人。区の豊かな財政（基金607億円）の一部（8億円）を活用すれば十分実現できる。」と採択を求めました。よだ議員（ちい声）も「加入世帯の負担は限界に来ている。採択を。」と発言。しかし、自民党議員からは、この要求は「非現実的」で「不採択」にすべきなどと意見が出され、意見が分かれたため審査未了となりました。



陳情採択 西武新宿線「開かずの踏切」解消を！

上落合東部町会長などから出された「西武鉄道新宿線の開かずの踏切対策に関する陳情」が全会一致で採択されました。これを受けて、①新宿区は西武新宿線高田馬場駅から中井駅間の連続立体交差に向けた検討を再び始め②連続立体交差化について区は、東京都と西武鉄道など関係者に強く働きかけることになります。

陳情を議論した環境建設委員会で沢田あゆみ議員は、「区議会としても東京都や西武鉄道に意見書や要望書を出す必要があるのではないか。」と提案し、各会派が持ち帰って検討することになりました。

連続立体交差化の実現には多くの時間を要するため、沢田議員はそれまでの間、できうる対策を進めるよう要望しました。



下落合駅前の開かずの踏切